

交差点 94号

発行：札幌市交通安全運動推進委員会
令和2年7月

しっかりと 止まってかくにん 横だん歩道

内閣総理大臣賞（最優秀作）

危ないよ イヤホン スマホで うわの空

内閣府特命担当大臣賞（優秀作）

「令和2年使用交通安全年間スローガン」（全日本交通安全協会・毎日新聞社）より

夏の交通安全について保護者の皆さまへ

気温も上がり、札幌にも本格的に夏が到来しようとしています。

これからの季節は、日が暮れるのが早い冬に比べて活動時間が長くなりがちであるため、子どもたちにはより一層交通安全への意識を高めてもらいたいものです。

昨年1年間（平成31年1月～令和元年12月）に、札幌市内において交通事故によりケガをした中学生以下の子ども（未就学児を含む）は215人で、そのうち夏季の7月から9月の間に起きた事故でケガをしたのは62人でした。

子どもたちが交通事故に遭うことなく楽しい夏が過ごせるよう、大人が普段から交通ルールを守って子どもたちのお手本となるようにしましょう。ルールを守って過ごすことは、子どもたちを守ることに繋がります。

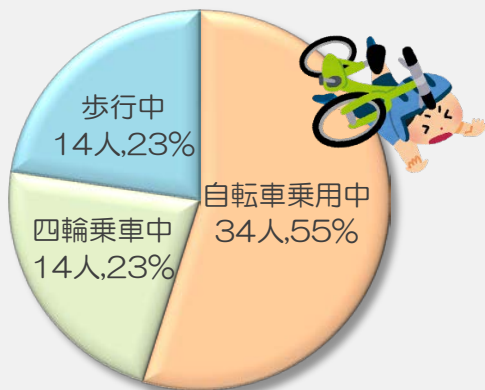
ご家庭でも改めて交通安全についてよく話し合い、皆さま健康で有意義な夏をお過ごしください。

夏の交通事故発生状況（令和元年7月～9月）

札幌市の交通事故発生件数
中学生以下の子どもの傷者数

1,208件（前年比+110）
62人（前年比+3）

図1 中学生以下の子どもの状態別傷者数



ケガをした子どもを状態別で見ると（図1）、**自転車乗用中が34人で最も多く過半数を占めています**。そのうち7月中の事故でケガをしたのは17人で、うち10人が小学生でした。何事も、慣れてきたころの事故には特に注意する必要があります。安全な自転車の乗り方について再確認させるようにしましょう。

夏は活動時間が長くなり夜道を歩くこともあるかと思いますが、ドライバーから見えやすいように夜光反射材を活用するなどし、事故への対策を忘れないようにしましょう。

※紙面上のグラフは端数を四捨五入しているため、合計が100にならない場合があります。

夏の交通安全指導のポイント

● 車道や車道のすぐそばで遊ばせないようにしましょう。

● 安全な横断の仕方について指導し、

必ず横断歩道のあるところを渡らせましょう。

● 自転車乗用時には必ずヘルメットを着用させ、

安全な乗り方について指導しましょう。



子どもの急な飛び出しは
大変危険です！



自転車保険はインターネット等でも加入でき、
自動車保険などで自動車事故の補償が
付帯されている場合もあります



歩道は、**歩行者が優先**になります。

13歳未満の子どもが自転車を運転する場合や、
車道の通行が難しい場合などは歩道を走ってもよいとされていますが、その場合
でも**必ず車道寄りを徐行**させるようにしましょう。

また、万が一事故を起こしてしまったための**自転車損害賠償保険にも
必ず加入**しましょう。(子どもが加害事故を起こした場合、保護者の監督責任
が問われることもあります！)

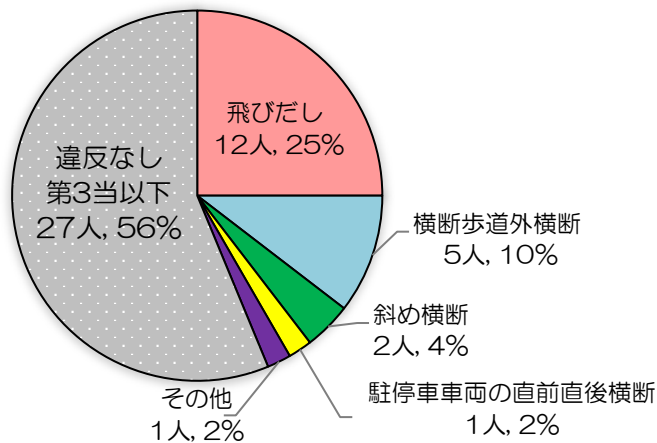


図2 小学生の**歩行中**被害の違反別傷者数
(H31.1~R1.12)

昨年一年間、市内で歩行中及び自転車乗用中の事故
でケガをした小学生の数を違反別に見てみると、ど
ちらも違反なしが過半数で最も多くなっていますが、歩行中(図2)では飛びだし、自転車(図3)では安全不確認がそれぞれ最も多くなっており、どちらも大変危険な違反です。歩行中の飛びだしについては、違反があった小学生のうち、約6割となっています。

車は急に止まることができません。子どもがどのよ
うに横断をしているか、どのような自転車の運転を
しているかを普段からしっかりチェックして、指導
してあげましょう。

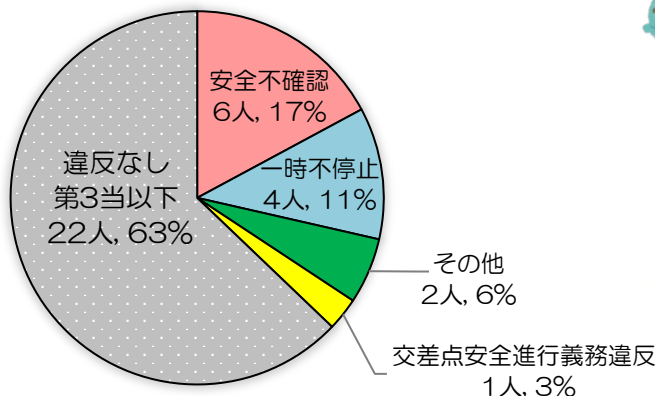


図3 小学生の**自転車乗用中**被害の違反別傷者数
(H31.1~R1.12)



どうろをわたるまえに**とまる**

くるまがこないかみる

くるまのおとを**きく**



くるまがとおりすぎるまで**まつ**